

ゴールデンウィーク初日一本の電話がなった。母が電話にでると母の祖母が心臓が痛いと言って倒れたという内容だった。かけつけるとすでに救急車が到着しており、曾祖母は心臓が止まり救急団員の方々にAEDと心臓マッサージをされているところだった。いつも元気な曾祖母がぐったりしているのを見てもう死んでしまうのではないかと思い、涙がでてきた。救急団員の方が処置を続けていると曾祖母は息を吹き返した。そしてそのまま救急車で病院まで運ばれていった。迅速な対応のおかげで曾祖母は助かった。その後母から救急車は税金で動いていることを聞いた。税金の印象は百円の物を買ったら十円の消費税がつき、十円払わなくてはならない。そんなのもったいないなと思っていた。しかし命を救ってくれた救急車に税金が使われていると知って税金が身近に感じられるようになった。

そこで私は税金についてインターネットで調べてみようと思った。国や都道府県、市区町村では、私達が健康で文化的な生活を送るために、個人ではできないさまざまな仕事をしている。その費用は、国民みんなで出し合っている。これを「税金」という。税金には四十六種類もの種類があり、消費税や所得税、法人税など知らなかったことがたくさんあった。税金は警察署や消防署、市役所、公立病院、公園、ゴミ処理施設、道路や橋の整備など。毎日通っている学校でも、校舎や机、椅子、黒板、理科の実験道具、教科書などに使われている。もしも税金がなかったら、今は救急車を呼べば無料で病院に運んでもらえるが、お金を払わなければ運んでもらえなくなる。学校に行く時毎日通る道路の信号もついていないし、道もぼろぼろ。ゴミの収集者がこなく、街中ゴミだらけ。交通事故にあったり、地震や台風の被害にあっても助けてもらうサービスは全てお金がかかってしまう。あたりまえに利用している公共サービスがなくなってしまう。学校に行くのにもお金がかかってしまう。税金はみんなが互いに支え合いよりよい社会を作っていくために必要な物だ。

いつもにこにこしながら五百円玉をくれる曾祖母の命を救ってくれた税金に感謝をしたい。今は消費税しか払う機会しかないが、大人になって自分でお金を稼いだら税金を払う機会が増えていくだろう。自分も社会に貢献できる大人になりたいと思う。